

HEIB講座・公開研究発表

「中食ビジネスの分析をしよう」—学生が目線でビジネスを提案

The Sozai 商品の魅力！

女子学生を対象としたキャリアアップ講座・HEIB講座では、夏合宿のグループワークの成果「中食(なかしょく)ビジネスの分析をしよう～The Sozai商品の魅力～」について10月18日、生田キャンパスで研究発表を公開で行った。



グループ別に研究成果を発表(生田キャンパスで)

夏合宿チーフの西本真菜さん(経営3)を中心に学生企画「中食ビジネスを分析しよう」をテーマに掲げ、RF1などの店舗を展開している(株)ロック・フィールドの玉川SPSファクトリーで、惣菜を作る現場を見学するなど、研修を深め、合宿では四つの班が研究発表を行った。今回はその成果をブラッシュアップして発表会に臨んだ。

「見た目・心・体・地球」の四つのキレイという付加価値をつけた商品を提案した班は、自然に還(かえ)るプラスチック容器の使用を提案。アクティブシニア(50代後半)向けに健康に配慮した商品を提案した班は、伝統野菜や郷土料理にヒントを置いた。さらに20代の働く女性をターゲットに、携帯で健康管理をという「One to One Marketing」の実現を目指すプラン、また、「和風スープをワゴンで販売」することで若者に和食の素晴らしさを見直してもらい、食育を浸透させるというプランも発表された。

(株)ロック・フィールドからは販売などの部門から8人が出席。中野郁夫社長室室長は「既成概念にとられない斬新なアイデアで、ヒントもありました。ターゲットへのマーケティング調査の実施などで、もっと実現性が高くなる可能性も」とコメントした。

担当の見目洋子商学部助教授は「夏合宿から、はるかにブラッシュアップし、企業人の前で提案したことは大きな自信につながる」と講評した。

中食＝持ち帰り惣菜・弁当

《県人会 北から南から》 連県主催「第39回川島正次郎杯争奪野球大会」

100チーム参加 優勝は「パズ」

100チームが参加し、6月から行われてきた連合県人会主催の「第39回川島正次郎杯争奪野球大会」の決勝戦が10月26日、川崎市高津区の宇奈根球場で行われた。3—0で「パズ」が「ライズ」に勝利し、優勝の栄冠を勝ち取った。3位は「UMANI ON THE STRAWBERRY」。

金澤信也実行委員長(商4・宮城県人会・茨城県太田第一高)は「天候不順や会場変更などがあり苦労しましたが、実行委員の頑張りもあり、長期にわたった大会を無事に終えることができました。参加したみんなが楽しんでくれた良かった」と話した。



川島杯実行委員会のみなさん(前列左から4人目が金沢委員長)



パズ優勝の胴上げ

「マザーテレサの家」でボランティア

三石健史さん〈商4〉

商学部4年次の三石健史さんは、夏期休暇を利用して、インド・カルカッタの「マザーテレサの家」でボランティアを行った。

1年次の時にインドネシアでのスタディツアーを主催するNPOに携わる親戚の手伝いを経験。「何か人の役に立つことを」と考え続け、学生生活最後の夏にボランティアを選んだ。

午前中は「プレムダン」で排せつ物の処理などを手伝い、午後は「カリガート(死を待つ人の家)」でマッサージなどを行った。「認識が甘かった」と反省した初日。どれほどの量を口に運べばいいのか、分からない食事の介助。ベテランボランティアを求める人々の目。それでもマッサージをしたおじいさんから「君に会えたことは神様のおかげ」と話しかけられたことは忘れられない。

意識も変わった。15年間、毎年1カ月仕事を休み、ボランティアに参加している外国人に「君たちは単なる体験だ」と批判され、「してあげている」という驕りの気持ちもあったかもしれないと反省したという。

金融機関に就職が内定し、日々インド経済が気になる。「証券外務員の資格をとるように言われています。今までなら、『やらされている』という感覚だったでしょうが、将来、インドと関わりのある仕事をしたいという夢が出来たので俄然意欲がわいてきました」。

帰国後、すぐにフィードバック出来たわけではない。しかし、確実に変化した自分を感じている。

《留学生からのメール -7-》

理想的環境で勉学に励む

ネブラスカ大学リンカーン校<米>に中期留学 久保田聖充さん(経済4)
8月からアメリカのネブラスカ大学リンカーン校で勉強をスタートし、2カ月が過ぎました。この2カ月間を振り返ってみると、まったく異なった環境に身を置くことによって、多くのことを吸収し、貴重な体験をしていると感じています。



最初に到着してすぐは、何も分からない状態でしたが、半月ぐらいで生活にも慣れ、アメリカでの留学生生活を満喫しています。

毎朝、8時30分からクラスが始まるので、自己管理もしっかりとしなくてはなりません。しかし、前の晩、課題やエッセーが終わらず、あるいは友だちと話し込んで、明け方まで起きていることもしばしば……。

そして、英語力の面ではまだまだだなどと思うことも多く、とくにネイティブの友達と話す時など、自分の英語力の未熟さを感じています。

しかし、生まれも文化も異なる人々とコミュニケーションを図ることは、自分にとってやる気にもつながり、良い刺激になっています。

英語圏だけでなく、さまざまな国から来た留学生たちとの交流からも多くのことを学んでいます。

留学に興味を持っている人がいたら、ぜひ、挑戦すべきです。実際、日本を離れて生活してみると、今まで自分の知らなかった多くのことに触れることができ、大きく成長できると思います。

このような理想的な環境の中で勉強出来ることを無駄にしないよう、残りの留学生活で少しでも多くのことを吸収して帰りたいと思います。

写真＝後列右端が久保田さん

《健康フラッシュ》

「体内時計」と「睡眠」

現代は「24時間社会」と言われるとおり、昼夜の区別なく人が活動する時代です。便利な面もありますが、その反面、睡眠障害など健康への影響も現れてきています。その原因の一つとして、「生体リズム」が乱れている可能性があります。

生体リズムとは、すべての生物に備わっている「体内のさまざまな働きの、一定の周期をもった変化」をいい、私たちの健康を保つ上で大切なものです。人間には「朝起きて活動し、夜眠る」という1日のリズムがあり、このリズムを乱さないことが、快適な睡眠を得る第一歩となります。

このリズムは、「体内時計が刻むリズム」と呼ばれていますが、実は、体内時計は平均約25時間で、時計が刻む1日より長いのです。

私たちは、放っておけば後ろへ後ろへとずれ込んでいく傾向にある生体リズムを、社会生活の24時間に修正しながら日常生活を送っているのです。この修正に最も重要な役割を果たすのが「光」で、朝起きて太陽の光を浴びると、体内時計がリセットされます。ただし、このリセット機構が働くのは、朝目覚める時刻の1～2時間だけなので、朝の光を浴びることが重要です。昼まで寝ていて、昼の光を浴びても体内時計はリセットされません。

体のリズムを整えるためには、朝一定の時刻に起きて太陽の光を浴びること。また、朝食をきちんととり、胃腸の活動が一定時刻に起こるよう習慣づけることが大切です。布団のぬくもりが心地よい季節には、とりわけ良質の睡眠を得たいものですね！

(保健室)